

松竹大歌舞伎

【演目】一、「鬼一法眼三略巻 菊畑」 二、「土蜘蛛」

圧倒的な存在感を放つ、尾上松緑が登場！
歌舞伎ならではの趣向を凝らした、人気2作品を上演。

2023年7月16日(日) 14:00 開演

【会場】北とぴあ さくらホール(王子駅すぐ)

【料金】S席 7,500円(北区民 6,500円) / A席 5,000円(北区民 4,500円) /
B席 3,000円 ※25歳以下は各席種一般料金の半額

※詳細は北区文化振興財団のHP等をご覧ください。 <https://kitabunka.or.jp>

<尾上松緑(おのえしょうろく)が語る公演の魅力>

先日、製作発表記者会見が行われ、尾上松緑さんが公演について語りました！

それぞれの演目について見どころを教えてください。

「菊畑」は、幕が開くと舞台一面が菊の花壇。まず舞台の大道具が綺麗でございます。歌舞伎の大道具ですから、もちろんリアルではないのですが、そのリアルではないからこそ、絵のような美しさ。その中で繰り広げられる。

正直言って、このお芝居はものすごく内容が深いというものではないですね。ただ、出てくるそれぞれの登場人物のきれいさ、かっこよさをお客様に喜んでいただける、ある意味で顔見世狂言に近い作品かも知れません。



「土蜘蛛」は、最後の派手な立廻りなど、舞踊の中でもテクニックが重要な演目です。

梅枝さん演じる頼光という役は、ずっと品位を保ちながら舞台の上で進行をまわしていかないとはいかない。新悟さんが演じる胡蝶という役は、女形の踊りというものをお客様にお見せする。一人一人、登場人物それぞれに見せ場があります。

そして最後の最後に、モンスターである土蜘蛛が、正義の味方達によって退治される。お客様には、最後まで観ていただいて、すっきりと気持ちよく帰っていただける演目ではないかと思えます。



公演情報詳細はこちら

※ウラ面に続く

松緑さんが演じる役どころについて教えてください。

「菊畑」：鬼一法眼という役は、おじさんではありますが、非常に懐が深い、かついいおじさんの役であります。鬼一は、舞台上で本心を表さない。本当に自分が思っていることを、隠して、隠して、という役なので、ある意味、辛抱立役に近いのではないかと考えております。鬼一を演じるには、まだひよとしたら私自身は若すぎるのかも知れませんが、けれどもそういう懐の深さみたいなところを、お客様にみせていければいいなと思います。

「土蜘蛛」：祖父や父も得意にしておりました土蜘蛛の精という役で、私が若い頃から、菊五郎の兄さんに手取り足取り教えていただいた、大切な役の一つでございます。土蜘蛛の精が叡山の僧に化けている間、人間ではあるけれども、妖気であったり殺気であったりというものを、出すことが非常に難しいとっております。

今回「菊畑」で得意とする智恵内役ではなく、初役の鬼一法眼を演じるにあたって。

恋愛ではないんですが、ある意味での智恵内から鬼一への片思い的な部分があると思っております。智恵内は弟である身分を隠して、兄である鬼一の館にしのんでいる。しのんでいるわけだから、ばれてはいけないのだけれども、どこかでわかってほしいというような葛藤、そういう智恵内の片思い的なものが非常に大きい。ですから、僕自身が智恵内をやる時には、牛若丸への忠義はもちろんですが、鬼一という兄貴への愛情を非常に重く受けとめて務めていた。

これがいざ鬼一をやってみると、この場面では、鬼一は、まさか知恵内が自分の弟だということは知らない。ですので、鬼一は愛情を隠しているわけではなく、なんだか使用人の中でもかわいいやつ、という何らかのシンパシーを感じている。その感情が、兄弟であるということがわかっていけば、お腹の中で消化できることなんではしょくけども、疑問のまま物語は進んでいく。ですので、鬼一の気持ちの消化の仕方というのは、自分の中で段取りをつけていかないといけない。



今回は私以下、若い人たちでの巡業になります。なかなか派手な演目でございますので、観に来てくださったお客様にも喜んでいただけることと思います。ぜひ、応援をよろしくお願いいたします！

※主催・問い合わせ※

(公財) 北区文化振興財団

03-5390-1221 (平日 9時～17時)

<https://www.kitabunka.or.jp/>

★★ 関連講座 開催 ★★

「歌舞伎が十倍おもしろくなる！講座」 6/25(日)13:00 北とぴあ つつじホール

講師：高木秀樹(イヤホンガイド解説員)

～名物イヤホンガイド解説員による見どころ解説は、聞けば必ず観たくなる！～